

編集後記

この場をお借りして、遊・星・人の読者へ伝えたいことが二つあります。第一に、第四回月の起源研究会についてですが、世話人としてまったく準備不足で、講演者と参加者の皆様にご迷惑をおかけいたしました。特にご多忙中にもかかわらず講演・投稿を快くお引き受けいただいた方々には、そのご厚意を研究会の議論の中に十分に生かせなかったことを深くお詫びいたします。

研究会では、それぞれの講演について活発な議論が行われました。しかし、今回の研究会が目指したものは、セッション全体のテーマについて各講演の間の有機的なつながりを議論することでした。残念ながら、その目的は十分に達せられなかったと思います。言うまでもなく、その咎は講演者ではなく、本研究会を企画・構成した私にあります。特に講演者の方々には、世話人の意図が十分に伝わっていなかったために、講演内容について混乱があったようでした。多くの参加者の皆さんにとっても期待はずれだったと思います。もし今後も「月の起源研究会」を引き継いで下さる方がおられるならば、どうか今回の反省を活かして下さるようお願いいたします。

第二に、読者の皆さんに、是非考えていただきたい問題があります。現在日本が、「われわれ」が、計画している月惑星探査は、そこにつき込まれる予算や人的資源に見あう科学的成果をもたらすでしょうか？もちろん、惑星科学の研究者全てが探査に関心を持つ必要は無い、と思う方もおられるでしょう。実際に今回の研究会と直後の月惑星シンポジウムの参加者の顔ぶれを見てみると、聴衆がどんどん入れ替わっていました。惑星科学の理

論、観測、実験、あるいは分析的研究者が融通無碍に惑星の起源と進化について議論し合うという状況にはほど遠いようです。しかし、敢えて読者の皆さんにお願いします。考えてみて下さい。「現在日本が計画している月惑星探査は、つき込まれる資源に見あう科学的成果をもたらすだろうか？」と。

いずれ遠からぬ将来、我々はこの問いかけを外部から（それが政治家であれ、官僚、マスコミ、あるいは納税者であれ）突きつけられるでしょう。その時「あの探査計画は上から降ってきたから」とか、「自分の専門外だったから」という弁明は許されないはずで、読者の皆さんは「惑星科学の専門家」として、一連の探査を評価できる知識と能力を持ち合わせているのですから。日本の探査計画につき込まれる資源は、予算だけをとってみても膨大なものです。等価な資源を他の基礎研究に、教育に、福祉に、あるいは国際協力に費やしたならば、いかほどの成果が上がるのでしょうか？それを評価できるのが、わずか数百人のコミュニティであるならば、我々はその社会的責任から逃れることはできません。この問題はすでに三年前の秋期講演会で取り上げられ、その後公開シンポジウムでも議論されました（山本他、1996、遊・星・人、第5巻、10-16）。あのとき指摘された問題点の多くは未解決のままです。Yes/Noは皆さん一人一人の判断に委ねられています。どうかこの問題にもう一度正面から向き合ってみて下さい。第四回月の起源研究会は、実は、そのためにあったのです。

並木則行

編集委員

村江 達士 [編集長] 高木 靖彦 [幹事]

荒川 政彦 飯島 祐一 海老原 充 加藤 工 木村 眞 小林 憲正 小林 直樹

佐々木 晶 田近 英一 中村 良介 並木 則行 平田 岳史 松島 弘一 渡部 潤一

1998年9月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第7巻 第3号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 村江達士 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学科

印刷所 〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科

地球惑星科学専攻内 日本惑星科学会

TEL 03-3720-9885 FAX 03-5734-3538

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。